

科目名	自然地理学 Physical Geography						
科目担当者	朝日 克彦 ASAHl Katsuhiko						
単位数	2	配当年次	2 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	自然地理学は、人間が活動する地球（地表）の特徴やその成り立ちを扱う地理学の一分野で、その素養によって自然環境について概観したり将来を展望したりすることが出来る。また地球上で生じている自然現象は、地球の歴史や互いの因果関係によって生じていることから、覚えるのではなく論理的に考えれば理解できる事柄が多い。この講義では地理が単純な暗記科目ではなく、頭を使って考えれば理解できることを経験し、併せて社会科、地歴科教員として最低限必要な自然地理学の基礎を身につけることを目的とする。						
授業の到達目標	教職課程、地歴科及び社会科の教科科目である「自然地理学」について、一分野に偏ることなくこれを広く取り扱い、 ① 体系化された知識を一通り理解する ② 自然地理的な諸現象が生じる仕組みを考え、説明できる。 ③ 土地の成り立ちと現状を把握することができる。						
授業計画・内容	1	イントロ 講義の進め方、自然地理的なものの見方					
	2	地球のすがたと歴史					
	3	地球の気候システムと大気循環					
	4	地球の気候システムと海洋循環					
	5	地球の気候とケッペンの気候区分					
	6	地球の歴史と生命の進化					
	7	地球の歴史と第四紀（人類紀）					
	8	地形発達史					
	9	変動地形					
	10	山地の地形					
	11	河川と平野の地形					
	12	海岸の地形					
	13	自然災害					
	14	地球環境の未来像					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	指定教科書のうち、次回講義内容の当該箇所を読んで、そこに出てくる重要な用語（ターム）の意味を事前に調べ、講義に臨むこと。（毎週 1 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	各回の講義終了時に参考図書の一覧を提示する、いずれも新書。特に興味を持った複数の講義回の中で図書一覧の中から図書を選定して読了すること。読了した図書の理解度を試験で課す。（45 時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法 予習チェック 定期試験（復習の程度と講義の理解度）				評価比率 30% 70%	到達目標との対応 ① ①, ②, ③	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	高等学校検定教科書『高等学校 新地理総合』、『新詳 地理探究』ともに帝国書院。						
参考文献	松原彰子（2020）：『自然地理学 第 6 版：地球環境の過去・現在・未来』。慶應義塾大学出版会、ISBN 4766426525 酒井治孝（2016）：『地球学入門 第 2 版：惑星地球と大気・海洋のシステム』。東海大学出版会、ISBN- 4486020995						
その他							